

成果の説明書

(氏名) 西野寿章	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>【研究成果】</p> <p>今年度も充実した研究を行うことができたと考えている。平成 25 年度から 27 年度までの 3 年間にわたる科学研究費「戦後の山村における電化過程における地理学的研究」が採択された。これまで進めてきた戦前期の町村営電気事業や電気利用組合の研究の延長線上に本研究を位置づけ、戦後日本において完全電化に至るまでの山村の対応について研究する機会が与えられた。研究は広島県を中心とした中国地方において進めており、これまで十分に知られていない戦後の山村地域における地域電化への対応を明らかにしていく予定である。平成 25 年度内に公刊された研究論文等は次の通りである。</p> <p>(1)論文</p> <p>西野寿章(2014)：「戦前における市営電気事業の展開と特性」, 地域政策研究(高崎経済大学)16-2, pp.1-19.</p> <p>(2)研究ノート</p> <p>西野寿章(2013)：「戦前における町村営電気事業の類型化に関する一考察(2)」, 地域政策研究(高崎経済大学)16-1, pp.53-64.</p> <p>(3)執筆分担</p> <p>西野寿章(2014)：「地方都市における宿泊業のデフレ経済への対応」, 高崎経済大学産業研究所編『デフレ経済への多角的接近』日本経済評論社, pp.101-116.</p> <p>(4)その他</p> <p>1)西野寿章(2013)：「内発的発展」, 人文地理学会編『人文地理学事典』丸善出版, pp.252-253.</p> <p>2)西野寿章(2014)：「山村研究と電気事業研究への取り組み」, 藤田佳久・阿部和俊編『日本の経済地理学 50 年』古今書院, pp.153-161.</p> <p>3)西野寿章(2014)：「先人の取り組みに学ぶ 広島県の小水力発電文書」, 広島県立文書館「文書館だより」38 号, pp.2-3.</p> <p>4)西野寿章(2014)：「下小埜町の獅子舞」, 群馬県教育文化事業団編『平成 25 年度伝統文化継承事業 調査報告書』, pp.14-15.</p> <p>(5)委託研究</p> <p>群馬県企画部地域政策課・群馬県西部県民局・高崎経済大学地域政策学部西野研究室(2013)：『他県類似自治体との比較による西上州過疎地域の調査研究』。</p> <p>【学外研究費獲得状況】</p> <p>1)日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)「戦後の山村における地域電化過程に関する地理学的研究」(平成 25 年～27 年度, 研究代表者・西野寿章, 課題番号 25370917)。</p> <p>2)日本学術振興会科学研究費基盤研究(B)「中山間地域における林業・森林環境と住民生活に関するマネジメント=モデルの構築」(分担研究, 平成 23 年～25 年, 研究代表者・大阪大学教授・堤 研二, 課題番号 23320182)。</p>	

【教育成果】

【学部講義】担当講義の学生アンケートによる評価点は、地域政策学入門C:87.9、農村地理学:87.4、地域開発論 89.3、観光地理学 86.7 であった。いずれも、学部全体の平均評価、大学全体の平均点を上回っているものの、例えば観光地理学では、授業内容について「やや難しい」「難しい」という評価が25%を占めており、2014年度は講義内容と教授方法について、受講生の感想を聞きながら検討していくこととしたい。

【学部演習】毎年、山村地域で行っている演習Ⅰの平成25年度の地域調査研究は、群馬県上野村で実施し、夏休みの4日間の現地調査、その後の補充調査を経て、平成26年3月に『非合併山村の村づくりとその成果—群馬県上野村を事例として—』(西野研究室刊, 189p.)を刊行した。ゼミ生の発案により研究成果の現地報告会を3月16日(日)に上野村において開催し、村長はじめ、村民の方々に研究成果を聞いていただき、ゼミ生にとっては貴重な経験となった。演習Ⅱは全員が卒業論文を提出し、卒業希望者は全員が就職して卒業した。なお卒業生の中には、山村自治体職員に採用された者が含まれている。

【大学院】大学院では2名の修士課程の演習生と研究テーマに沿った資料分析と討論を繰り返し、修士論文執筆のための指導を行った。

【学会・社会的活動】

平成25年度に学外で担当した学会委員、社会的活動は次の通りである。

学会 1)日本地理学会 E-journal GEO 編集委員, 2)経済地理学会編集委員, 3)群馬地理学会庶務委員長。

委員会等 1)群馬県ぐんま緑の県民税評価検証委員会委員(委員長), 2)群馬県中山間地域総合検討委員会委員, 3)群馬県公共事業再評価委員会委員, 4)群馬県教育文化事業団・ぐんま伝承文化継承委員会委員, 5)群馬県埋蔵文化財調査事業団評議員, 6)群馬県森林・緑整備基金評議員, 7)高崎市市有林管理委員会委員(副委員長), 8)国土交通省菌原ダムビジョンアドバイザー。

講演等 1)長野県飯田市竜丘地域自治会・竜丘の歴史に学ぶエネルギーによる地域づくり講師(25.9), 2)TBS 噂の東京マガジン出演(25.8), 3)群馬県・ぐんま緑の県民税県民意見交換会コーディネーター(25.10 前橋市, 25.11 館林市, 25.12 高崎市)。

2 その他の事項

- ・平成25年度から国際交流センター長を担当し、海外語学研修制度の充実整備、交換留学生の受入体制の整備などを運営委員、担当事務局と共に進めた。
- ・本学の地元である下小埜町北野神社の獅子舞奉納に人手不足が生じていることを、委員を務めている群馬県教育文化財団の調査を通して知り、ゼミナール生に呼びかけたところ、3名のゼミナール生が太鼓担当として秋と春の例大祭に参加し、地域の方々から喜ばれたことは特筆される。グローバル化への対応は重要であるが、足下が疎かになってはならず、何の打算もなく積極的に地元の伝統継承に関わり、地域政策学部で学んだことを実践する学生諸君の姿は、マスコミにも注目され、「獅子舞救う大学生」として大きく報道された(25.10.7 読売新聞群馬版)。